薄井ゆうじの

小説塾

プロ作家による小説創作の通信講座

www.syousetujuku.com

受講のご案内

～２種類の講座をご案内します～

↑
『小説塾』のサイトへＧＯ

134-0084 東京都江戸川区東葛西 4-4-1-227　　TEL 03-6661-4171
http://www.syousetujuku.com/　　メール　usui@syousetujuku.com

初めての小説創作から新人賞への応募まで『小説塾』がお手伝いします。

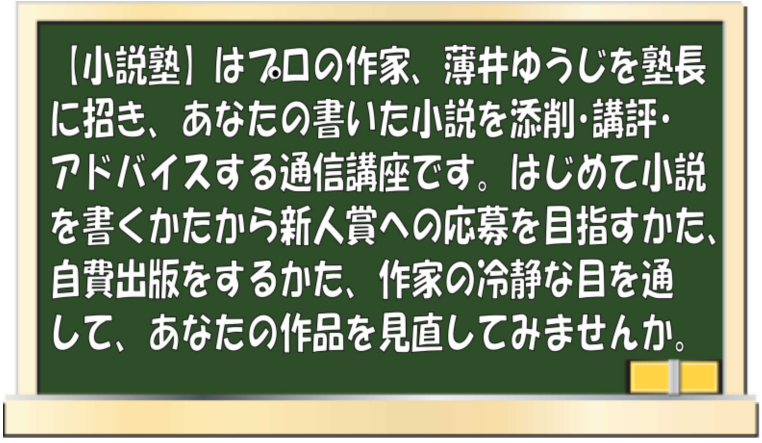
小説創作の愉しい世界へ、ようこそ。この受講資料は、『小説塾』の２つの講座をご案内いたします。
ある程度、小説をお書きになれるかたを対象とした、『１作品１回完結講座』は、あなたが自由に書いた作品を添削講評してアドバイスいたします。はじめて小説を書くかたや、小説創作の基礎から学びたいかたには、課題にしたがって創作した作品を６回にわたって提出する『全６回・課題コース』をご用意しています。どちらのコースをお選びいただいてもかまいませんし、両方のコースを同時に受講してもかまいません。ご自分に合ったコースをお選びくださいませ。
また、塾長・薄井ゆうじの、作家としてのプロフィールや、創作をご指導するにあたっての理念なども掲載されていますので、併せてお読みいただければ幸いです。
この資料をお読みいただいて、何かわからないことがございましたら、どんな小さなことでもかまいません、メールまたは郵便にて、お気軽にお問い合わせくださいませ。迅速に回答させていただきます。
あなたの作品を拝読させていただくことを、スタッフ一同、心よりお待ちしております。　『小説塾』

小説創作・１作品１回完結講座 …… ４ページ

小説創作講座・全６回・課題コース『はじめの１歩』 新講座 …… ６ページ

塾長・薄井ゆうじからのメッセージ …… ８ページ
原稿の作り方 …… 10 ページ
原稿の送り方・お支払い方法 …… 11 ページ
受講生の皆様の声 …… 12 ページ
Ｑ＆Ａ（よくある質問） …… 14 ページ
郵便を利用しない受講のご案内 …… 17 ページ
【特定商取引法に基づく表記】 …… 18 ページ

小説を書く。



作家の才能、眠っていませんか？

作家も、歌手も、スポーツ選手も、はじめから作家や歌手やスポーツ選手だったわけではありません。才能は、磨かなければ光らないのです。作家という才能の磨き方、それを知っているのは、実践で作家をしている人だけだと『小説塾』は考えます。数多くの作品を発表してきたプロの作家・薄井ゆうじ塾長に、小説の技術を、あなたが書いた実作の小説で具体的に指導してもらいませんか？

『小説塾』は、初めて小説を書くかたから、新人賞を狙うかたまで、あなたとプロの作家を結ぶお手伝いをいたします。ここには実作だけで指導する、本物の創作の世界があります。通信添削講座だからこそ、作家の本音が聞ける、本物の創作講座が実現しました。

小説を書くことは、自分を見つめること。さあ、あなたの才能を目覚めさせてください。

自分を見つめる。

小説創作・１作品１回完結講座

１作品１回完結講座・受講の流れ

プロ作家が指導します

１作品１回完結の講座は、あなたが書いた小説を、作家の薄井ゆうじが直接、添削・講評・アドバイスする講座です。何作品でも、何回でも受講することができます（その都度、料金はかかりますが）。意欲のあるかたはどしどし作品をお送りください。はじめて小説を書いたというかた、小説の新人賞への応募を考えているかた、そして小説を自費出版したいというかた――。あなたの作品を、塾長がていねいに添削し、講評やアドバイスを書いて返送いたします。

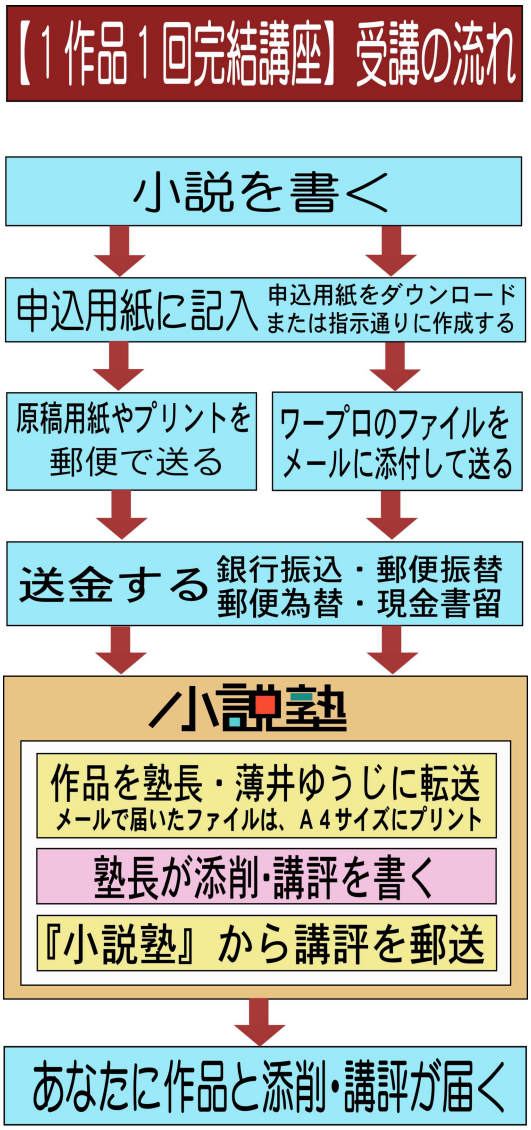
実作を具体的にアドバイスします

具体的な作品を通じて、小説の書き方を細かくご指導いたします。プロ作家の目を通して講評しますので、文芸担当の編集者が作家に対してアドバイスをするときと同じような、実践的で具体的なアドバイスをいたします。この講座の講評や添削は必ずあなたの小説力の栄養源になることと思います。

プロへの道を用意します

もちろん、講評やアドバイスをもとにあなたが書き直した作品は、あなた自身が書いた小説ですので、どこに応募してもかまいませんし、自費出版することもできます。

また優秀な作品は、ご本人のご承諾を得た上で、塾長・薄井ゆうじが責任をもって文芸誌の担当編集者に読んでもらうことも考えています。



■講評が届いたあと、講評の内容についての質問は約２週間以内でしたらお受けいたします。ご質問は、メールまたは郵便でお送りください。

■講評は、郵送ではなく、メールで送ることも可能ですので、「メールを希望」と明記してください。

１作品１回完結講座･受講料金表

１作品１回完結講座・受講料金表		
100枚コース	1枚～100枚	20,000円
150枚コース	101枚～150枚	25,000円
200枚コース	151枚～200枚	30,000円
300枚コース	201枚～300枚	40,000円
400枚コース	301枚～400枚	50,000円
500枚コース	401枚～500枚	60,000円
600枚コース	501枚～600枚	70,000円
800枚コース	601枚～800枚	80,000円
1000枚コース	801枚～1000枚	90,000円

（上記の料金は、消費税を含みます）

■枚数とは、400 字詰め原稿用紙（20 字× 20 行）での枚数を言います。書き上げたものが何枚になるかは、つぎのように調べて計算してください。

【枚数の計算方法】

①ワープロの設定を、次のように設定します。

　１行の文字数→ 20 字

　１頁の行数　→ 20 行

②その設定で、全体が何ページになるかを調べます。それが原稿用紙の枚数になります。

③枚数を調べたあとは、９ページの「原稿の作り方」に書いてあるように、読みやすい文字数と行数に戻してから印字してください

■料金表の枚数は、１作品の枚数です。30 枚の作品が３作の場合は、100 枚コースが３つという計算になります。料金には消費税と、『小説塾』から作品と講評を返送する送料を含みます。『小説塾』へ作品を送る送料は、ご負担ください。

※ 1,000 枚を超える作品は、別途お問い合わせ下さい。
※日本国外からの受講は、郵送ではなく、メールに添付した講評でお送りしますので、国内と同一料金になります。国内のかたでも、郵送ではない方法をご希望の場合は、【講評はメール希望】と明記してください。

■作品は、可能でしたらメールに原稿のファイルを添付してお送りいただけると、さらに詳しい推敲・講評の作業ができます。ファイル形式は、一太郎、ｗｏｒｄ、テキストファイルなどです。

PDF ファイルも可能ですが、できれば他の形式でお送り下さい

【メールへファイルを添付する方法】

　まず、『小説塾』宛てのメールを作成します。メールの題名と本文を書いたら、エクスプローラーなどでひらいた、貼付したいファイル名を、メールの本文にドラッグ＆ドロップします（ドラッグはアイコンまたはファイルネームの上にマウスのカーソルをあわせ、マウスの左側のボタンを押したままアイコンを動かす操作です。ドロップはドラッグしたアイコンを移動させたい場所〈メールの本文のところ〉で、押していたマウスの左側のボタンを離す操作です）これで添付は完了。下記へメールを送信して下さい。

『小説塾』→　usui@syousetujuku.com

初級講座

小説創作講座　全６回・課題コース
『はじめの１歩』

はじめて小説を書くかた、そして、書き方がよくわからない、あるいは書いているけれど基礎から小説の書き方を学びたいというかた――、そんなかたのために、『小説塾』は、「小説創作講座・全６回・課題コース」という講座を開講しています。お気軽に受講して、小説を書く楽しさを味わってください。

講座は、はじめに全６回ぶんのテキストが６冊、送られてきます。１回目のテキストから読んでいってください。（テキストは、１冊あたり、10 ページから 17 ページです）

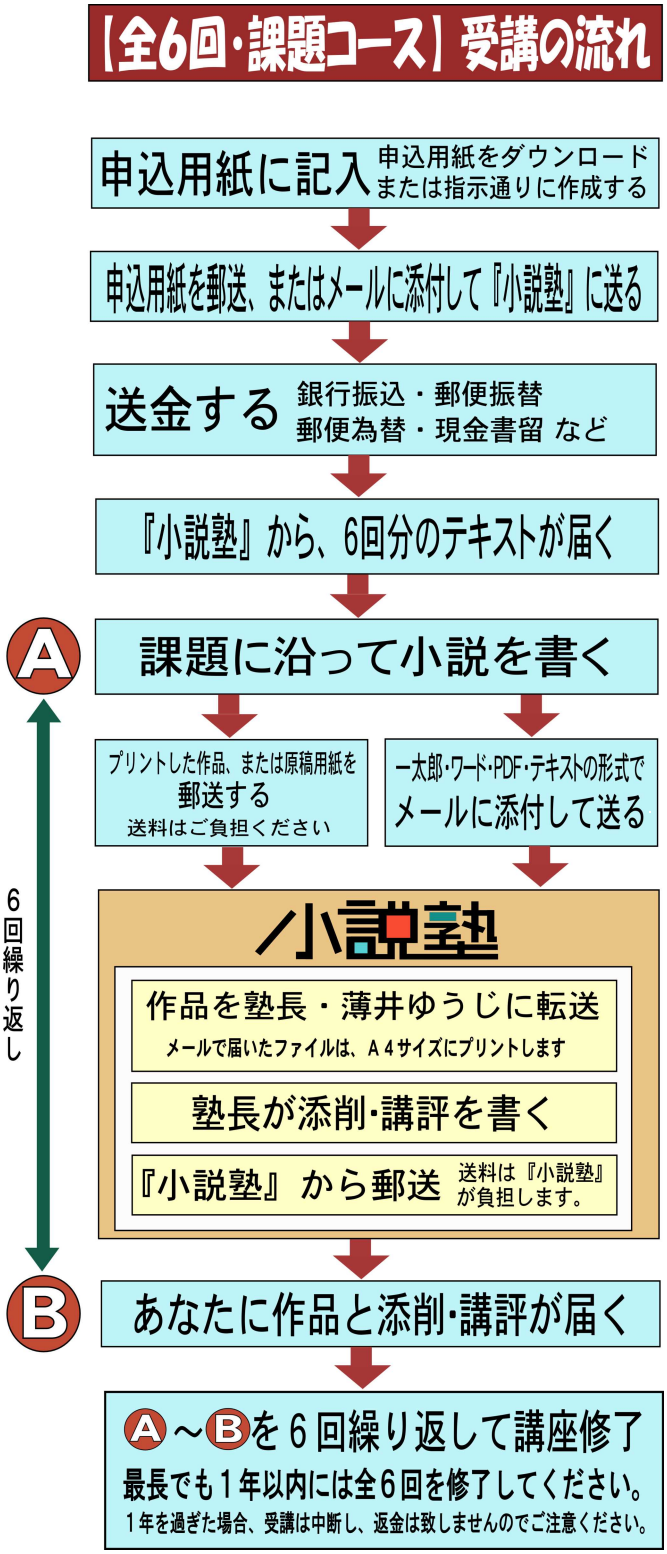
テキストの最後に、毎回、課題が提出されます。その指示に従って、小説を書いてください。最初は短い１０枚以下のものからで、６回目になると、５０枚以下の作品まで、段階を追って長いものが書けるようになっていきます。

全６回・課題コース作品提出枚数	
第１回課題	１０枚以内
第２回課題	１５枚以内
第３回課題	２０枚以内
第４回課題	２５枚以内
第５回課題	３０枚以内
第６回課題	５０枚以内

▲全６回のテキスト（Ｂ５・イメージ）

▲あなたには、あなたの
階段を昇る自由がある。

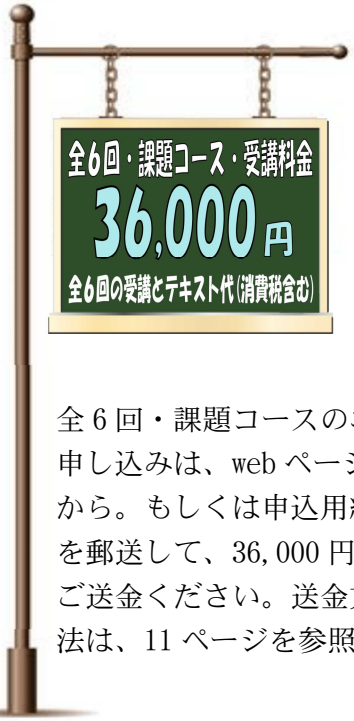
全6回・課題コースの流れと受講料金



全６回・課題コースのテキストは、１か月に１作品を提出できるように設定しています。ただし忙しくてなかなか書けないこともあるでしょうから、講座の有効期限は、テキストが届いてから１年間とします。これなら２か月に１作品、余裕をもって課題に取り組めると思います。

書き上がった作品は、ファイルをメールの添付で送るか、原稿用紙やプリントした原稿を封筒に入れて、あらかじめお送りした『小説塾』宛てのシールを貼って郵送してください。なお、『小説塾』への課題作品の送料は、ご負担ください。

受講料金と申込方法



全６回・課題コースのお申し込みは、web ページから。もしくは申込用紙を郵送して、36,000 円をご送金ください。送金方法は、11 ページを参照。

塾長・薄井ゆうじからのメッセージ

「作家にとって、つぎの作家を育てることは、ひとつの義務です」と、私（薄井）の師匠である推理作家の都筑道夫氏（故人）が、いつもおっしゃっていました。そして都筑氏の小説創作の講座は、多くの作家を輩出しました。作家は、ある程度の量の作品を発表したあとは次の作家を育てなければ、日本の文学は、やせ細ってしまうと、私も思っています。

　あなたの作品を真摯に、そして愛情を持って拝読させていただきます。賞への応募、自費出版など、書く目的は様々ですが、何よりまず小説を書くという愉しみを味わってください。そしてこの『小説塾』から、一人でも多くの作家が誕生することを願っています。

（塾長・薄井ゆうじ）

薄井ゆうじ・プロフィール

第 55 回・小説現代新人賞受賞
第 15 回・吉川英治文学新人賞受賞

出版した書籍→約 50 冊
発表した小説→約 1,000 作品
映画化・舞台化・ドラマ化された作品多数
日本文藝家協会会員
日本推理作家協会会員
映像と芸術の振興財団評議員

★薄井ゆうじの本を出版した主な出版社（順不同）

講談社・文藝春秋社・集英社・角川書店・小学館・岩波書店・徳間書店・実業之日本社・角川春樹事務所・マガジンハウス・双葉社・光文社・ベネッセほか

☆『薄井ゆうじの森』薄井ゆうじ公式サイト　http://www.asahi-net.or.jp/~bb4y-usi/

『小説塾』の理念――小説は、あたたかな精密機械です

私たち『小説塾』は、「小説は、あたたかな精密機械」だと考えています。この右にある画像を見てください。歯車です。小説なのに、なぜ歯車なのかと思ったかたもいらっしゃると思います。実は小説は、少しも狂いのない、精選された文字が連なった精密機械なのです。しかしながら、決して冷たい機械ではなく「あたたかな機械」です。右の画像の歯車は、実は一つ一つ、手で彫られた木材で成り立っています。木の年輪まで見えませんか？　あたたかな歯車――それこそが、小説を支える文字群の集団なのです。小説を書くということは、精密機械を組み立てるようなものです。一つ一つの部品〈言葉＝歯車〉を大切にしながら、破綻のない小説という精密機械を完成させることによって、小説という大きな機械が作動し、作者は思った通りの場所へ読者を着陸させるわけです。小説という機械が正確に作動してこそ、それを読んだ人が癒されたり、心のなかに、あたたかなものを感じたり、感動したり、読んで良かったと思ったりするのです。

あなたは、あなたの書く作品で、読者にどんな読後感を持ってもらいたいでしょうか。それが計画通りに作動する精密機械として完成させるためのアドバイスを『小説塾』の塾長・薄井ゆうじがいたします。

さあ、才能を目覚めさせてください

さあ、あなたの才能を目覚めさせてください。一度は小説を書きたいと思ったことのあるあなた、いまこそ実際に書いてみてください。そして、小説を書く愉しさを知ってください。

いままで何作か書いてきて、小説の公募に応募して落選を重ねてきたかた――、その書きかたの、どこがどういけなかったのか。どうすればもっと素晴らしい作品になるのか。それを知るためには、プロ作家の目を通して、作品を検証してください。そしてもういちど自分の小説を、しっかりと書くという気構えをお持ちください。何度も書き直して、推敲して、削除して、加筆して、完全な精密機械を完成させるという経験を、ぜひ一度なさってみてください。完璧な作品を書き上げたという喜びを味わってください。

ご自分の大切な作品を『小説塾』に送って、プロの、あたたかなアドバイスを受けてください。あなたの階段を上るのは、あなた自身です。そして才能を目覚めさせるのは、あなた自身なのです。

原稿の作り方

原稿の書き方

手書きの方は、原稿用紙に縦書きします。原稿用紙は、大きなサイズの原稿用紙でもいいですし、小さなサイズの原稿用紙でもかまいません。ワープロの場合は、原稿用紙にではなく、Ａ４の罫(けい)のない白い紙を横にして、そこに縦書きに印字してください。

書きかたですが、はじめに題名を書いてください。題名無しや、『無題』という題名は、いけません。題名の次の行に作者名を書いて、そこから一行空けて、本文に入ります。作者名はご本名を書いてください。ペンネーム（筆名）にすると、作品が誰のものかわからなくて、迷子になってしまう可能性があります。

会話文のはじめのカギカッコ「　」は、上に詰めて書きはじめます。地の文の冒頭は、一字空けてから書いてください。

ワープロの印字方法

一枚の用紙に印字する文字数が多すぎたり、文字が小さすぎると、読む人が「しんどいなあ」と思うことがあります。ある程度大きな字で（12 ポイント位）、書体は明朝体を選び（ＭＳ明朝）、上下に紙の余白をとって、一ページの行数や一行の文字数を、バランスよく印字してください。字間（文字と文字のあいだ）は詰めて、行間（行と行のあいだ）は、読みやすいように広げてください。印刷された小説の本を見て、文字の大きさと、文字と字間・行間のバランスをよく見て、それを拡大した比率にしてみて下さい。

ノンブル（ページ数）の位置は、左上の肩に印字します（手書き原稿用紙の場合も、同様です）。ワープロにノンブルを打つ機能がない、あるいは設定方法がわからなければ、手書きでノンブルを書き入れてください。

原稿の提出方法

ワープロでの提出は、できるだけファイルをメール添付でお送り下さい。ファイルの形式は、「一太郎」「word」「テキストファイル」などです。「ＰＤＦ形式」は加工や検索などが難しいので、お薦めしません。メール添付で送っていただいたファイルは、こちらでＡ４の用紙に印字してから添削・講評をいたします。

手書き原稿やＡ４サイズの紙にプリントしたものは、郵送してください。手書きの場合も、プリンターで印字した場合も、束ねた原稿を右上の肩で綴じてください。枚数が少ないときはホチキスで、多いときはダブルクリップ(ターンクリップ)で綴じます。

※１回コース、100 枚以上の作品には、できれば梗概（あらすじ）を付けてください。梗概の長さは原稿用紙１～２枚程度です。

原稿の送り方

作品の提出方法は、２通りあります。

①簡単で速く送るには、原稿のデータファイルをメールに添付してお送りください。ファイル形式は、「一太郎」「word」「ＰＤＦファイル」「テキストファイル」のいずれかにしてください。その際、「申込用紙」の内容もメールに添えてください。

作品ファイルのメールの送り先　usui@syousetujuku.com

②メール添付で送る方法が、速くて割安なのでお薦めですが、メール送信ができない方は、原稿用紙またはワープロでプリントした作品を、郵送して下さい。

（1 作品 1 回完結講座の場合は、記入した「申込用紙」も同封してください）

送り先：134-0084 東京都江戸川区東葛西 4-4-1-227 『小説塾』

※他の作品や文献からの引用は、できるだけ避けて下さい。引用した場合は、引用元を明記して下さい。引用やインターネットからのコピーは、盗用と見なされるおそれがありますのでご注意下さい。
※日本国外からの受講料金は、外国の都市部でしたら送料は『小説塾』が負担します。郵便事情が悪い地域の海外の場合は、メールのみでの受講も可能です。
※作品は、日本語で書かれたものだけを対象とします。ただし作品中に一部、必要に応じて英語などの外国語が挿入されることは差し支えありません。

お支払い方法

☆お支払い方法は、以下の４通りから、都合のいい送金方法をお選びください。
☆作品を送って、同時に受講料をご送金ください。お振込料はご負担ください。

■銀行振込の場合■

PayPay 銀行（ペイペイ銀行）
支店名　すずめ支店
普通預金
口座番号　２００３９４９
口座名義　ショウセツジュクウスイユウジ

■郵便振替の場合■

口座記号番号　00110-7-486558
口座名義　　ショウセツジュク

■郵便為替の場合■

郵便局で受講料と同額の「郵便為替」を購入し、「作品」と「申込用紙」を同封してお送りください。
受取人の欄には何も記入しないでください。
為替購入の手数料は、ご負担ください。

■現金書留の場合■

作品とは別に、現金書留の封筒で現金と「申込用紙」を同封してお送りください。
送り先：134-0084 東京都江戸川区東葛西 4-4-1-227 『小説塾』

受講生の皆様の声

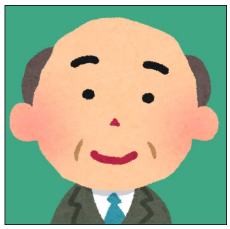
受講生のナマの声を集めてみました。典型的な感想をダイジェスト的にまとめました。文章は多少、加工してありますが、受講生のナマの感想をお聞き下さい――。

M・Kさん（28 歳・男性・会社員）

学生時代から、小説をたくさん読んできました。会社勤めをするようになってからは、自分でも小説を書こうと思うのですが、どうしても書きはじめる切っ掛けが、つかめませんでした。この『小説塾』に出会ってからは、「6 回課題コース」のテキストを参考にしながら、コツコツと書きはじめました。ようやく、小説を書く愉しさが、わかってきたように思います。

S・Rさん（38 歳・女性・印刷会社勤務）

出版社に就職したかったのですが、関連事業の、今の会社に勤めて仕事に追われ、ふと気が付いたら、もうアラフォーに。私は、本当は何がしたかったの？　と自分に問い詰めた結果、小説が書きたいと思い、『小説塾』を受講する決心をしました。今までは、時間もお金も、自分自身には投資してこなかったなあという反省を込めて、真面目に受講をつづけています。



S・Aさん（54 歳・男性・会社役員）

若いころから、文学賞に何度か応募してきましたが、鳴かず飛ばず。一次選考通過が 1 回だけです。なぜその先へ進めないのか。賞では、落選した理由は教えてもらえないので、『小説塾』に、以前応募した作品を一作ずつ送って、講評とアドバイスをお願いしております。細かな指摘と、丁寧なアドバイスを受けて、どこをどう直せばいいのかを具体的に教えていただきながら、つぎの応募を狙っているところです。

T・Uさん（82 歳・女性・無職）

若いころは文学少女といいますか、いつも小説本を愛猫のように手元に置いて暮らしてきました。夫を亡くしてからは、何かをしたいと思い、『小説塾』にアドバイスを求めました。今は小説の新人賞も、ワープロ原稿以外は受け付けないところも出てきたので、慣れない手つきでパソコンをいじっています。塾長からは、「楽しみながら書くこと。そうしないと読者も楽しめない」というアドバイスをいただき、今は執筆をエンジョイしています。

G・Kさん（47 歳・男性・医師）

専門の医学知識を生かして、医者が主人公の小説を書いては、『小説塾』の 1 回コースでアドバイスしてもらっています。「専門的になりすぎると、読者には理解できない」という講評は参考になりました。誰にでもわかりやすく、しかもきちんと医学知識を伝えるのは、読者に対しても、患者さんに対しても、あんがい難しいものだと気が付きました。小説は、自分の専門知識だけではなく、広い視野で広範な知識を蓄えていく必要があると痛感しています。

S・Nさん（29 歳・女性・アメリカ在住・広告会社勤務）

中学の国語の教科書に作家・薄井ゆうじの短篇『蠍座カレンダー』が載っていて、それ以来ファンになりました。いまは海外で一人暮らし。ある日、自分の体験をアレンジして小説を書いてみようと思い立ち、その作品を『小説塾』に送って塾長・薄井ゆうじさんの講評とアドバイスを受けました。１回コースは海外からの受講でも、日本国内と同じ料金だそうで、原稿をメール入稿して、好評もメールで受け取れるので、日本との距離を短く感じます。外国を舞台にして書くと物語世界が広がる……、ような気がするのは私だけなのかも（笑）。

G・Hさん（小学5年生・女性）　（『小説塾』では最年少の受講生です）

小説が大好きで、塾に通う代わりに、『小説塾』の受講を両親にお願いしました。学校の宿題もあるので、６回課題コースの期限に間に合わなかったのですが、『小説塾』さんは、期限を延長してもらいました。いまは不思議なお話を書くのが大好きですが、こんどは大人の人も読めるような物語も、書いてみようかなあ。

N・Aさん（36 歳・男性・会社員）

家族には内緒で受講しています。『小説塾』に「匿名で」とたのめば、個人名の封筒で送っていただけるので助かります。１作ずつ、１回コースでアドバイスしてもらいながら、新人賞に応募をつづけています。この３年間で６作ほど、見ていただきました。いつの日か、受賞したら家族にも小説を書いていることを打ち明けます。その日が来ますように……。

Y・Uさん（52 歳・女性・主婦）

作家の薄井ゆうじ先生は以前、ある雑誌で小説の講座を開講していらっしゃいました。その講座が閉講したので、今はここで作品を見てもらっています。そのころから数えると受講し始めてからもう 10 年以上になります。いつも丁寧で細かな指摘と講評に、感謝しております。ときおり「こうしてみてはどうですか」という大胆なアドバイスをいただくことがあり、まさに目からウロコ、小説の奥深さに気付かされることが多々あります。

G・Tさん（48 歳・女性・派遣社員）

文章を書くことが好きで、新聞や雑誌などへ随筆を投稿してきました。今回、この『小説塾』を受講して、小説は、随筆やエッセイとはまるで違う書きかたをしなければいけないと気付かされました。小説は、創るもの。文体から物語の構成まで、すべて新しく取り組まなければと思っていますが、書く愉しさは、小説のほうが数倍も大きいのではないかと実感しております。

Q&A　よくある質問をまとめてみました

質問

『小説塾』では、具体的にどんな添削やアドバイスをしてもらえるのですか。

回答

その作品に合わせて講評し、様々な添削と講評とアドバイスをいたします。具体的には、誤字脱字や、言葉の使用方法の間違いなどの細かな指摘もあります。そして整合性といって、つじつまの合わない部分を指摘することもあります。大きな部分では、物語の出し入れの順序や、前半の読者の興味のひき方、中盤の盛り上げかた、後半の感動や読後感を意識した書きかたなど、多岐にわたります。題名へのアドバイスもありますし、登場人物の名前や性格づけについてのアドバイスもあります。

すべての作品に上記のすべてのアドバイスをするのではなく、その作品に何が必要か、何が不要なのかを見極めながら、最善の作品になるようなアドバイスをいたします。文章の細かな部分から、小説という大きな舞台作りまでを、実作品に合ったかたちでアドバイスするので、具体的で実践的な参考になるはずです。

質問

添削・講評は、およそ何日くらいで返送されてくるのですか。

回答

「１作品・１回完結講座」の場合は、200 枚以下であれば、作品がとどいてから、講評・添削・アドバイスして返送するまでの日程は、おおむね１～２週間程度です。300 ～ 500 枚の原稿は、２～３週間、それ以上の枚数ですと、もうすこし日程がかかります。ただし、この日程は平均値ですので、賞への応募の締め切りに間に合わせたいなどの事情があれば、優先的に返送させていただくこともできますので、ご相談ください。

「全６回・課題コース」の場合は、作品の長さや、塾長の都合などにもよりますが、作品が届いてから、10 日から２週間程度で返送されます。

質問

この講座で添削･アドバイスを受けた作品を、小説の新人賞に応募してもかまいませんか。

回答

はい。まったく問題はありません。

講評や添削は、あくまでもアドバイスです。それを参考にして、書き直すかどうかはご自由ですし、どう書き直すかは書き手が決めるのですから、書き上げたものは、あくまでもその人の著作物です。プロの作家も、編集者のアドバイスに従って書き直すことがあります。あるいは、編集者の意見に従わずに、書き直さない場合もあります。どちらにしても、書き上がったものは、その作家の作品なのです。

したがって、それをどこに応募しても、まったく問題はありません。ご自分の作品だと胸を張って応募なさってください。そして、それがもし受賞したら、その手柄はすべてあなたのものです。この講座は、そのために少しでもお力になれればいいのです。

質問
原稿用紙に手書きで書くのと、ワープロソフトで書くのでは、どちらがいいのですか。

回答
作品の中身が大切ですので、どちらで書いてもかまいません。
ただし、原稿用紙に手書きで書いていらっしゃるかたは、できれば機会をみてワープロ（パソコン）を導入することも考慮してみてはいかがでしょうか。ワープロあるいはパソコンは、大量に文字を入力しても腱鞘炎にならず、いつでも清書したようにプリントできるので、とても便利です。
特に、自分が書いたものを何行か削除したり、何ページか修正したり移動したりという場合は、手書きのかたは、原稿が汚くなるので面倒になり、そのまま書き続けてしまうことが多いようです。パソコンであれば、削除や修正も簡単なので、自分の作品を徹底的に書き直すことができるという利点があります。
さらに自分の思い込みによる誤字や、送り仮名の間違いなどについても、ワープロは正しいものを表示してくれるので、些細なミスは激減すると思います。
そういう意味でパソコンの導入を考えてもいいと思います。高価なものは必要ありません。文字入力と印刷程度でしたら、いま市販されているパソコンとプリンターなら、いちばん安価なものを買っても充分に使えますので、ワープロの導入を検討してみてください。

質問
家族や友人に、自分が書いた小説を読んでもらっていますが、これ以上、どこをどう直せばいいのかがわかりません。『小説塾』で受講することの利点は何でしょうか。

回答
あなたが書いた作品を身近な人に読んでもらうという方法は、『小説塾』ではおすすめしていません。なぜならご家族や友人たちは、あなたとの関係性を悪くしたくはないので、「すごいねえ」「こんなの、よく書いたねえ」「私には小説なんて書けないなあ」などと、絶賛に近い褒め言葉しか返してこないのではないでしょうか。この褒め言葉が実は、あなたの才能の伸びを停止させてしまっているのです。
ご家族や友人が作家だったり、文芸編集者だったりする場合は別ですが、それでも親しすぎる人物は、あなたの作品の欠点をはっきりとは言ってくれないのではないでしょうか。プロを目指すなら、もっと上達したいなら、プロの実践的な指導を仰ぐことが最善です。辛口の批評や、明らかな欠点の指摘もあるかと思いますが、それは身近な人間からは得られない、貴重なアドバイスだとお考えください。

質問
この講座は、何歳くらいの年齢層を対象にしたものですか。

回答
薄井塾長はこれまで（ほかの講座などで）数百人の受講者の作品を添削･講評してきました。年齢層は、若いかたは小学５年生から、上は 90 歳近いご高齢のかたの受講があり、その作品を読んできました。小説に、年齢や性別は関係ありませんので、お気軽に受講なさってください。

質問

かなり以前に書いた作品でも読んでいただけますか？

回答

はい。最近書いた作品でなくてもかまいません。若いころ書いて応募した作品が押入の奥から出てきた、これがなぜ落選したのか、どの程度の評価を受けるものなのか、落選しただけでは誰もその理由を示してはくれません。一度プロの作家に読んでもらいたいというかたもいらっしゃると思います。『小説塾』では、書いてから何十年も経った作品でも、拝読させていただき、どこをどう直せばいいのかのアドバイスをさせていただきます。そのような場合、できれば「何年前の」とか「何歳のころ」に書いたというメモをしていただければ、評価の参考にさせていただきます。

質問

小説というものは、教えたりできるものなのですか。

回答

いい質問ですね。本質的には、小説の核になる部分は教えられるものではないと思います。しかしながら『小説塾』は、教えることのできる部分がたくさんあると考えています。

たとえば自動車教習所では、車の運転方法を教えますが、免許を取ったあと、その車でどこへ行くのか、車を何に使うのか、それは教習所では教えられません。

同様に小説も、小説の書き方を教えたり、書きかたの欠点を指摘したり、どうすればもっとよくなるのかなど、具体的なことでお教えできることはたくさんあります。しかし、そうして身につけた創作力を使って、「何を書くのか」「なぜ小説を書くのか」「小説を発表して読者に何を伝えたいのか」などは、お教えすることではなく、あなたが自由に考える創造の世界ですので、そこに『小説塾』は、足を踏み入れることはいたしません。

以上が、教えられることと、教えられないことの区別です。

質問

添削・講評･アドバイスが届いたあと、それに対する質問をしてもいいですか。

回答

はい。講評やアドバイスの内容がよく理解できなかった場合は、メールか郵便で、ご質問ください。講評が送られてから２週間程度以内なら、メールでのご質問を受け付けております。長い質問は困りますので、簡潔に質問の要点を書いてメールでお送りください。

電話でのご質問は、事務的な事柄だけを受け付けます。それ以外の、講評の内容に関することは、電話では一切受け付けません。なぜなら電話口に出るのは『小説塾』の事務処理をしている担当者ですので、小説や創作についての専門家ではありません。責任のある回答はできないので、ご理解ください。

メールでしたら、そのメールを塾長・薄井ゆうじに転送し、回答をすることができます。ご質問は、講評とアドバイスが返送されてから、およそ２週間以内にお願いいたします。

●その他、ご質問などありましたら、お気軽にお問い合わせください。

メール：usui@syousetujuku.com
郵便　：134-0084 東京都江戸川区東葛西 4-4-1-227　『小説塾』
サイト：http://www.syousetujuku.com/

新型コロナウイルス対応の受講方法について

〈郵送を使わない受講もできるようになりました〉

■『小説塾』では、コロナ・ウィルスの蔓延による、郵便事情の悪化（特に海外や離島宛ての郵便物の停滞や遅延）などを考慮して、郵便物を介しない方法での受講も可能にいたしました。

■国内・国外を問わず、郵便を使用しないで、メールだけで受講のやりとりをご希望の方は、お申し出いただければ対応いたします。

■このメールのみの対応は、ご家族や同僚などに受講を知られたくない場合にもご利用いただけます。

■添削や講評などを、読みやすいＰＤＦファイル形式でお送りします。ファイルのままパソコンの画面で読んでもいいですし、Ａ４の用紙にカラー印刷してから読むこともできます。

■【メールだけの受講を希望】と明記してください。

■ご利用条件

お手元のパソコン等で、ＰＤＦファイル（拡張子が pdf のファイル）が読み取れる環境が必要です。ほとんどのパソコン環境で、読み取れるはずです。

■ＰＤＦ形式のファイルを閲覧できないときは、Acrobat Reader が必要となります。Acrobat Reader（無料） は、こちら↓からダウンロードできます。

https://www.hilife.or.jp/pdfht/pdfhow.html

【特定商取引法に基づく表記】

販売業者：『小説塾』
運営統括責任者名：塾長・薄井ゆうじ
所在地：〒134-0084 東京都江戸川区東葛西 4-4-1-227

受講料金以外の料金：作品を『小説塾』へ郵送（または宅配便）する場合の送料は、受講生に負担していただきます。『小説塾』から、受講生に、作品と添削･講評を返送する送料は無料です。
消費税：消費税は、受講料金に含まれています。
手数料：銀行振込、郵便振替、郵便為替、現金書留などの送金手数料は受講生の負担でお願いいたします。
返金など：やむを得ない事由で、添削･講評ができなくなった、あるいは返送が大幅に遅れるような場合は、その旨をお知らせして、受講料の全額を返金し、作品はお返しいたします。
破損について：返送した講評が破損していた場合、『小説塾』まで、メール等でご連絡ください。復旧不可能な場合を除き、当該物品を再生し、お送りします。
再受講、再質問等について：講評は、塾長・薄井ゆうじの、一つの結論です。お送りした講評等に疑問があったり、反論があった場合でも、それに対する再回答は、およそ２週間以内に限らせていただきます。いまはわからなくても、いつかはわかることもありますし、講評は一個人の見解ですので、『小説塾』がそれへの疑問や反論についてコメントする義務はありません。このことをご理解の上、受講してください。もちろん、物理的なご質問（講評のページが一枚抜けている、講評の印字がかすれて読みにくいなど）は、お受けいたします。
講評の返送時期：「全６回・課題コース」の場合は、およそ１週間から２週間ほどで講評と添削が返送されます。「１作品１回完結講座」の場合は、300 枚以内であれば、早ければ１週間～２週間程度、それ以上は、枚数や塾長の都合によって日数がかかりますが、最長でも 30 日以内の返送になります。
お支払い方法について：銀行振込、郵便振替、郵便為替、現金書留などをご利用ください。
お支払い期限：メールでの申し込みや、作品を郵送したあと、およそ１週間以内にお支払いください。
キャンセルについて：あなたの作品が「小説塾」に届いて、ご入金の確認ができたあと、講評の作業に入ります。おおむね３日前後ですが、それ以前でしたら、事情の如何を問わずキャンセルを受け付けます。キャンセル料金は、いただきませんが、作品の返送が必要な場合など、費用を要する場合は、その費用と、返金の振り込み料金などを差し引いた金額をお返しいたします。３日を過ぎた以降も、講評の作業が始まっていない場合には、キャンセルを受け付ける可能性もありますので、お問い合わせください。講評作業が始まったあとのキャンセルは受け付けられません。

屋号またはサービス名：薄井ゆうじの『小説塾』
電話番号：03-6661-4171
メールアドレス：usui@syousetujuku.com
ホームページＵＲＬ：http://www.syousetujuku.com/

お支払い方法：
●銀行振込
PayPay 銀行（ペイペイ銀行）　すずめ支店　普通預金　口座番号 2003949　口座名義 ショウセツジュクウスイユウジ
受講者の名義で振込料はご負担の上、ご入金ください。
●郵便振替
口座記号番号　00110-7-486558　口座名義 ショウセツジュク
受講者の名義で払込料はご負担の上、ご入金ください。
●郵便為替→郵便局で、受講料と同額の郵便為替を購入し、受取人は無記名のまま、
申込書・作品と一緒に同封して『小説塾』にお送りください。
●現金書留→現金書留の封筒に、必要事項を記入した申込書を同封して、『小説塾』までお送りください。

小説塾
〒134-0084 東京都江戸川区東葛西4-4-1-227 『小説塾』
TEL 03-6661-4171　http://www.syousetujuku.com/

※この資料に記載されている内容について、無断転載・配布・引用等を禁じます。　2016 USUI YUJI
※この資料に使用している画像・イラスト等は、すべて PIXTA 等から使用権を取得しています。